

緑が豊かな中に 知的興奮が得られる街に。

「県庁探険隊」の腕章も勇ましく、今日も元氣印のママさん三人組。探険先は今年四月に発足したばかりの「景観整備室」。ママさん達はなかなかの聞き上手。そして、時折、鋭い質問攻めで核心を衝いていきます。若い角南室長もこやかにテキパキと答えてくれました。「景観整備室」とは一体何ものか。次第にその姿が明らかにされていきました。



田中 こちらではどのような仕事をなさっているのですか。

角南 ここから見ると街並みのように目に映る街の姿を景観といいますが、その景観について県民と行政が一体となって、今あるものを守り、さらにいいものを創っていくというふうなことです。具体的には、数年前から県が進めている「緑の三倍増計画」を進行管理することや、昨年の四月にできた景観条例に基づいて指導したり、県内の公共事業をやる時景観に配慮するよう指針を作ったりしています。

田中 緑が多くなるというのは、こちらのお仕事ですか。

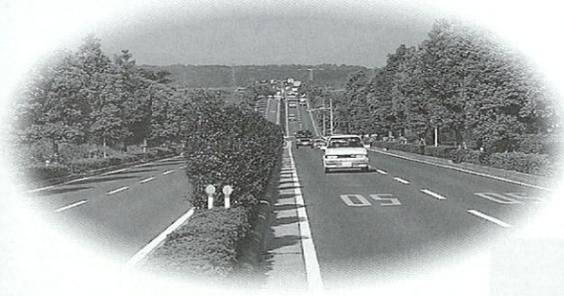
角南 そうです。緑の三倍増計画は、昭和60、69年の10ヶ年に千五百万本の木を植えましょうと県や国や市町村の施設に呼びかけ、うちで全体的な調整をしながら進めています。

川神 いま市内の方で、ブロック塀の前のフェンスにツタがからませてあるのも、こちらのお仕事ですか。

角南 はい。直接うちがやっているのではないんですが、県が進めている緑化の一つの手法です。できるだけ人

の目に見える所に緑を増やそうと大きい

街路樹やツツジなどの低木を植えたりしますが、どうしてもスペースがない所、それでも緑にしたいという所について



は、フェンスにツタとか、いろいろやり方を考えています。

川口 大きい、とても目立つ看板なども、こちらで規制されているのですか。角南 はい。ただし、規制というよりは、いいものを作って頂くように努めています。景観は、県民共有の財産なんです。「何を作るのが勝手」とばかりに、きれいな景観の中に目立つ看板みたいなものがポンと出てくると、せつ

それゆけ ママさん 探険隊



かくの財産が損われることになりまよね。そんな時には、周囲と調和するようなものにして頂くよう配慮をお願いすることになっているんです。その為、全県下を対象としては一定規模以上の行為について、県を代表する景観を持つ所や幹線道路沿いの地区などでは一定の行為について、届出による指導という方法をとっています。今のところ、第二空港線沿いから熊本空港周辺にかけての地域について、最も力を入れています。

意味での田園があります。阿蘇の外輪への眺望も開けている所で、それらを生かしながら、地域開発を進めていかなければならないところだと思っています。

話はその後、樹木の消毒や都市計画課との仕事の違いについて等々、最後には若い室長さん自身への興味のほこ先が向けられ、室内のスタッフの皆さんの間から笑いが飛び出すなど、なかなか雰囲気でした。景観整備室からの帰りのエレベーターで、偶然にも知事が乗り合わせられるというオマケがついて、探険は終わりました。



田中君代さん

景観整備室って知ってますか？と尋ねたら、5人のうち4人は知らないと答えると思います。それもそのはず、今年の4月に環境文化室から独立したばかりの新設室なのです。街を歩いていて、緑が日に日に増えていっているのは大変すがすがしいです。街並みを考え、県民と行政が一体となって、景観を整備してゆく部屋……もっともっと素敵な熊本にして下さることを祈っています。



川神知子さん

角南室長はまだ33歳という若さ。この頃熊本に急に緑が増えてきたのも、室長以下スタッフの皆さんの努力のためものと、初めて知りました。緑の三倍増計画、景観条例の設定など、緑豊かな街・熊本をめざして着々と準備は進行中のようです。生まれたばかりの景観整備室の活躍を、しっかり見守っていきたくと思っています。



川口由美さん

室長のお話の端々から景観問題には人一倍意欲を燃やされている感じが感じとられました。62年に景観条例が制定され、これからはより本格的に景観整備に取組まれるとの事。より多くのPRや働きかけで、私達住民の意識の向上を図っていただければ、官民一体の景観作りがうまくいくと思います。

県庁すっごい

県知事も利用する!?

●県庁互助会売店
(地下1階)



地下の売店というイメージから程遠い、窓からは庭が見えるお店。生鮮食品を除いてほとんど何でも揃っており、県内の特産品、お土産品(なんと菓子類はすべて一割引)、県試験場産のお茶などが売られていたのは印象的でした。(川口)

景観整備室長
角南 勇二